

研究能率を上げる一方法

SFCの教員にとって研究能率を上げる一般的な方法など、そもそもあるのか。それは存在する(！)。確かに一日は二十四時間であり、時間を増やすこと自体はできない。しかし、われわれの研究活動における集中度を高めるとともに、発想力を豊かにし、そして生活の楽しみも増やす方法が実はある。その答えは「SFC教職員テニスクラブ」のメンバーとなり、折りにふれてコートに出て汗を流すことである。

例えば、土曜日の午後、おっくうでもコートに出て二-三時間プレーしてみればよい。実際にやってみればすぐ納得できることであるが、プレー後は心身ともすっきりし、仕事の生産性が向上することは請け合いである。テニスの持つこうした一般的効用はよく知られている。しかし、SFCのクラブ(Faculty Tennis Club、FTC)には、これ以外にもいくつかの利点がある。

第一は、ゲストハウスの隣のこんもりした林の中に位置する四面のコートのうち、一面(D面)が教職員専用のコートとして指定されているので、とても便利なことだ。コートの予約は不要である。もし学生諸君がそれを使用しているとしても、われわれがプレーする場合には(学生諸君には申し訳ないが)退いてもらえることになっている。

第二の特徴は、シングルスでの激しい試合は原則として行わず、順繰りにメンバーを交代するダブルスを中心としているので、不必要な競争やプレッシャーがなく楽しくプレーできることだ。また、技術水準の優劣もここでは問題にならない。上級の腕前を持つメンバーもいるが、筆者のような初中級レベルでも、恥ずかしくなく参加できる。

ユニークな点の第三は、FTCへの関わり方は、メンバー自身の時間的な都合、あるいは関心などによって全く自由である点だ。確かに最近は、皆どうしても多忙であるため、実際にはときたまの土曜にプレーする(平日はなかなか難しい)、といったメンバーが多い。しかし、年末あるいは年度末には仕事の区切りをつけてかなりの数のメンバーの集まりがあり、また夏休み前後には合宿をすることもある(この場合には慶應義塾の保養所である伊豆高原荘を利用する)。プレー後の懇親会はいつも楽しい。また時間を見つけて、春の全塾テニス合宿や秋の全塾テニス大会(日吉コート)に参加する方々もいる。さらには、配偶者を連れてきて皆と一緒にプレーする方もいる。あるいは、合宿の夜、研究上の専門的な話をその他の素人に提示し、立論に磨きをかける場にする、という全くユニークな利用方法をする方もいる。

メンバーの資格に特別の制約はない。むろん男女も問わない。現在、会員は教員と事務職員の両方の幅広い層から成っており、その数は三〇名弱である。ただ、残念ながら、近年はSFC大学院の本格的立ち上がりに伴い、会費(月額五円、給料から天引き)だけを納入し、ほとんどコートに顔を見せない方も少なくないのが実情である。これらの方々は、もっとコートに出てほしいと思う。また、新規のメンバーも大いに歓迎したい。

ご関心のある方は、代表幹事の安村通晃さん(yasumura@sfc.keio.ac.jp)あてに電子メールでご連絡いただければ、会則とメンバーリストを返信のメールで送っていただけます。以上、FTCの世話役の一人(会計担当)として、そのPRをした次第です。

(慶應義塾大学SFCニューズレター「パンテオン」十一巻一号、二 年四月)